

PICK UP !

知ってる？！学校運営協議会

学校運営協議会 ～学校と家庭と地域をつなぐ事業～

学校運営協議会とは、保護者や地域住民、学校教職員などが集まり、学校の運営方針や目標について話し合う機関のことです。この協議会を設置している学校は「コミュニティ・スクール」と呼ばれ、さいたま市ではすべての小・中学校等に導入されています。

WHO ?

どんな人が参加しているの？

校長の推薦により教育委員会が委嘱等を行います。

今年度の議長はひかり認定こども園長 橋本孝さんです。
橋本園長と米原校長にお話を伺いました。

「叱る」よりも「理（ことわり）」を説く、針ヶ谷流の対等な関係

針ヶ谷小の子どもたちは自律して行動しているという事をよく耳にします。そのヒントは、二人が大切に子どもを一人の人間として尊重するという考え方にあります。

「砂場遊び一つとっても、計画を立て、準備し、思い切り遊び、片付ける。この一連のサイクルの中に『なぜ片付けが必要か』という理（ことわり）があるんです。」と橋本園長。感情的に「ダメ」と叱るのではなく、「次の人が気持ちよく使うためにはどうすべきか」という論理（理）を説く。これは3歳児であっても、一人の人間として尊重し、納得感を共有するプロセスです。

米原校長も、小学校の現場でそのバトンを受け継いでいます。「思ったことを口にする子は、裏を返せばエネルギーがあるということ。本校の子どもたちは男女の壁もなく、非常にフラットな関係を築いています。それは、教員も含めた周囲の大人が、子どもを『未熟な存在』として押さえつけるのではなく、一人の対等な対話相手として向き合っているからではないでしょうか。」

AI時代に求められる「勤勉な肉体」と「思考能力」

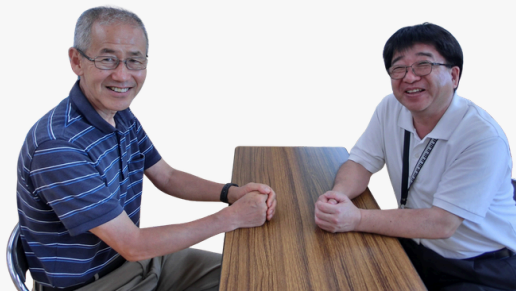
対談の最後、話題は「これからの時代を生き抜く力」に移りました。

「これからは知識の量だけでは勝てない時代だと考えられます。」と橋本園長は言います。

「インプットとアウトプットはAIに助けてもらえば良いでしょう。その上で人間に必要なのは、肉体を使って働くことを厭わない『勤勉さ』と、論理的に物事を組み立て、相手と合意を形成する『交渉力』だと考えられます。その両輪を持つ事こそが、本当の意味で社会を生き抜く力になってゆくと思います。」そのためには、地域の大人たちの関わりも不可欠ではないかとのことです。

「保護者の皆さんは忙しい。でも、その忙しい中で一瞬でも学校や地域に顔を出し、子どもたちに『大人が働く姿』や『社会の厳しさと楽しさ』を伝えてほしい。この地域で一貫して『理』を学んだ子どもたちが、将来、どんな生き方で世界を動かしていくのか。楽しみでなりません。」

編集：学校地域連携コーディネーター佐藤



学校運営協議会の詳しい内容は議事録をご覧ください。
昨年度の議事録もご覧いただけます。
学校運営協議会の次回の開催は11月4日になります。

